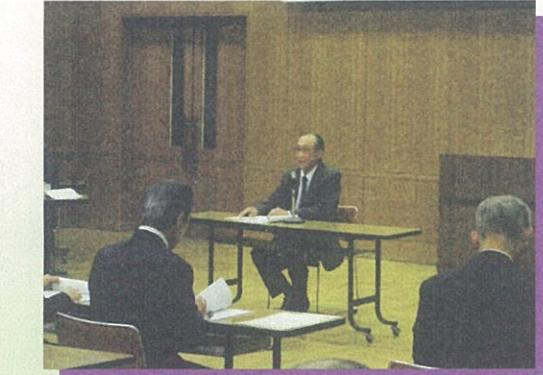


その後の意見交換の際には、質問等はなく約一時間の会議は滞りなく進行し、閉会となつた。

その後の意見交換の際には、質問等はなく約一時間の会議は滞りなく進行し、閉会となつた。



プラスチック選別センターにて

資源選別センターにて

リユースプラザにて



施設見学の様子

施設見学の様子

施設見学の様子

平成二十七年度 第一回 クリーンアップ推進員研修会

平成二十七年度のクリーンアップ推進員会議は、五月八日（金）午後六時より千歳市民文化センター北ガスホール大会議室で開催された。

千歳市から、環境センター長白戸様、廃棄物対策課長大和様、千歳市町内会連合会からは、安全環境部会長中川様、以上三名を来賓としてお迎えし、財団からは役職員七名、クリーンアップ推進員六十九名の参加があり、合計七十九名での会議となつた。会議に先立ち、永年功労者表彰式を行い、欠席者を除く三名の功労者へ表彰状を授与した。（詳細は最下段右の記事による）

本年（平成二十七年度）は、クリーンアップ推進員更新年度であり、続いて行われた委嘱状交付式では、新任二十三名を含む百十三名を代表して、クリーンアップ推進員会会長斎藤氏へ、財団五島理事長より委嘱状を交付した。

会議は、最初に斎藤氏が議長に選出され、事務局から報告第一号「平成二十六年度クリーンアップ推進員会事業結果報告」の説明があり、報告済みとなつた。

次に協議事項に移り、議案第一号「平成二十七年度事業計画（案）」と、議案第二号「クリーンアップ推進員会幹事選出（案）」について事務局より、提案説明があり全会一致で承認された。

続いて、その他として「紙パック奨励金寄附実績」を報告し、クリーンアップ推進員設置要綱の一部改正及び、「事業系廃棄物の取り扱いについて」は、それぞれ配布資料に基づき説明があり、併せて町内会長・自治会長宛にも、事業系廃棄物の取り扱いについての、資料を渡していくなどお願いをしました。

CLEAN-UP

発行責任者
(公財)ちとせ環境と緑の財團
理事長 五島 洋子

TEL 0123-26-1213

この推進員便りは
(株)カミノ様の
ご厚意で印刷されています。

受賞された出席者（右から） 池野 弘美さん・
高橋 勝男さん・長沼 道夫さん



受 賞 者

- ☆東雲町4・5丁目町内会 池野 弘美 様 様 様
- ☆白樺町内会 高橋 勝男 様 様 様
- ☆新星町内会 福山 修 様 様 様
- ☆おさつ団地町内会 長沼 道夫 様 様 様



平成二十七年度クリーンアップ推進員功
勞者表彰式を五月八日（金）千歳市民文化セ
ンターにおいて実施しました。
受賞者は永年（七年以上）にわたって推進
員として、資源回収やゴミ減量に活躍し、町
内会と財団との連絡調整役として尽力した
方々で、その功績を評価されての受賞となり
ました。

功労者表彰式実施



初めてにリユースプラザへ向かい、館長の挨拶のあと、説明を受けながら施設内を回った。ここでは、札幌市民が資源物を持ち込む、リサイクルセンターを併設している。市が回収する大型ゴミのうち、リサイクルを希望した家具・自転車などが搬入され、修理・清掃を施したうえで安価で販売し、自転車は月二回抽選会を行い、当選者を決めている。

視察している中で、リサイクルに関するゲームに参加し、大いに盛り上がり、館長が驚くほど推進員の皆さんは優秀で、結果はなんと全問正解者が十名もいました。しかし、賞品は一つしかありません、そこでじやんけんで決めることとなりましたが、これが皆さん結構マジのじやんけんで、意外と楽しめたようでした。（笑）

次に向かった中沼リサイクル団地内の資源選別センターでは、容器包装リサイクル法に基づきビン、缶、ペットボトルの選別処理をしており、ビデオによる事業内容と施設の説明を受けた後、施設内を視察した。

分別に関してはまだまだなされていないことが多い。工程の中でも手選別作業も行なわなければならぬと説明があった。

次に同じ団地内にある、プラスチック選別センターへ移動し、分別に関するゴミ分けガイドに沿って説明を受け、施設内を視察した。

天候に恵まれた研修会で、視察の際に推進員の方々からは、色々と質問があり熱心に説明を聞いていて、更なる知識の向上ができた研修会になつたと思います。

次に同じ団地内にある、プラスチック選別センターへ移動し、分別に関するゴミ分けガイドに沿って説明を受け、施設内を視察した。

分別に関してはまだまだなされていないことが多い。工程の中でも手選別作業も行なわなければならぬと説明があった。

次に同じ団地内にある、プラスチック選別センターへ移動し、分別に関するゴミ分けガイドに沿って説明を受け、施設内を視察した。

天候に恵まれた研修会で、視察の際に推進員の方々からは、色々と質問があり熱心に説明を聞いていて、更なる知識の向上ができた研修会になつたと思います。

住吉五丁目町内会は、昭和四十九年に現在の青葉六丁目から分離しまして、戸数三十一戸で町内会が発足しました。当時、町内会役員は五名で会館も無く、会長宅で役員会を実施していました。当然資源回収もありませんでしたし、小さくても楽しい我が家でした。昭和五十三年頃から戸数が増えまして、平成二十六年現在での戸数は二百八十五戸（マンション含む）になつていて、町内会加入数百五十三戸となつています。

資源回収の始まりは、昭和六十二年に老人会が、健康と井戸端会議と親睦のために始めました。当時はなかなか資源物が集まりませんでしたが、マンションブームの始まりでしたので、新築の家があればダンボールをもらい、ゴミ集積所をリヤカーで回り、家庭も回つて新聞や雑誌を頂きました。町内には一坪の物置があり、新聞や雑誌は物置の中に、空き缶やダンボールは防衛庁の空き地に、シートを掛け置きました。奨励金もささやかでしたが、この小さな輪が町内会会員の資源に対する理解のきっかけになりました。このきっかけで、一気に集団資源回収の気運が盛り上りました。

資源物の回収も、環境衛生部が中心になり、老人会、女性部、子供達、クリーンアップ推進員が、財団と町内の橋渡しとして、少しでもお役になればと思っています。

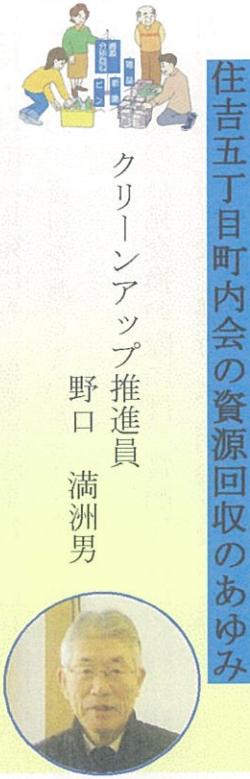
近年は、町内会行事も外に重きを置く家庭が多くなりつつあります。現在、資源回収量は横ばいが続いています。回収の啓発も続けていますが、マンション等の皆様にはまだ理解と、協力が得られておりません。ゴミの集積所にはまだまだ多くの資源物が出されていて、課題の一つになっています。町内会も近年、中年層のいない六十歳から、八十歳の町内になりました。町内の中からは、集団回収から戸別回収にと意見もあります。これから資源回収の在り方については、分歧点になると思います。町内会の皆様とも、クリーンアップ推進員として、話し合つていかなければならぬと思います。

住吉五丁目町内会は、昭和四十九年に現在の青葉六丁目から分離しまして、戸数三十一戸で町内会が発足しました。当時、町内会役員は五名で会館も無く、会長宅で役員会を実施していました。当然資源回収もありませんでしたし、小さくても楽しい我が家でした。昭和五十三年頃から戸数が増えまして、平成二十六年現在での戸数は二百八十五戸（マンション含む）になつていて、町内会加入数百五十三戸となつています。

資源回収の始まりは、昭和六十二年に老人会が、健康と井戸端会議と親睦のために始めました。当時はなかなか資源物が集まりませんでしたが、マンションブームの始まりでしたので、新築の家があればダンボールをもらい、ゴミ集積所をリヤカーで回り、家庭も回つて新聞や雑誌を頂きました。町内には一坪の物置があり、新聞や雑誌は物置の中に、空き缶やダンボールは防衛庁の空き地に、シートを掛け置きました。奨励金もささやかでしたが、この小さな輪が町内会会員の資源に対する理解のきっかけになりました。このきっかけで、一気に集団資源回収の気運が盛り上りました。

資源物の回収も、環境衛生部が中心になり、老人会、女性部、子供達、クリーンアップ推進員が、財団と町内の橋渡しとして、少しでもお役になればと思っています。

近年は、町内会行事も外に重きを置く家庭が多くなりつつあります。現在、資源回収量は横ばいが続いています。回収の啓発も続けていますが、マンション等の皆様にはまだ理解と、協力が得られておりません。ゴミの集積所にはまだまだ多くの資源物が出されていて、課題の一つになっています。町内会も近年、中年層のいない六十歳から、八十歳の町内になりました。町内の中からは、集団回収から戸別回収にと意見もあります。これから資源回収の在り方については、分歧点になると思います。町内会の皆様とも、クリーンアップ推進員として、話し合つていかなければならぬと思います。



クリーンアップ推進員
野口 満洲男



住吉五丁目町内会の資源回収のあゆみ



平成 27 年度 第 34 回リサイクルフェスティバル開催

午前十時から公益財団法人「ちとせ環境と緑の財団五島理事長挨拶」、「おまつり広場」「つどいの広場」において、第三十四回リサイクルフェスティバルを開催されました。午後二時半から車からの荷下ろしや陳列整理、テントの設営などに頑張り、フェスティバルが開催されると、再活用品展示即売、古衣料・使用済小型家電回収、自転車無料抽選会と大忙しだった。

今年は、「住みやすい環境」をテーマに、第2わかば幼稚園の年長組園児、三十名が描いた絵を展示し、会場を華やかにしました。

心配した天候は、昨年の猛暑とは違い、今年は曇空で風もあり少し肌寒い気候でしたが、午後一時からはフェスティバルの目玉である無料自転車抽選会では、抽選用紙を持つた方々のワクワクした顔と、当選して喜ぶ顔が見られ、会場には約三千二百人が来場し、盛況のうちにリサイクルフェスティバルは終了しました。お手伝い下さいました方々、本当に疲れさまでした。ありがとうございました。

第三十四回リサイクルフェスティバルは、八月八日（土）「軽トラ観光ちとせ市」との同時開催で、グリーンベルト（幸町四丁目）「おまつり広場」「つどいの広場」において、第三十四回リサイクルフェスティバルの目的である「再資源化によるゴミの減量化」を市民にアピールしようと、クリーンアップ推進員会長以下十名、その千歳市民の来場を得て開催した。

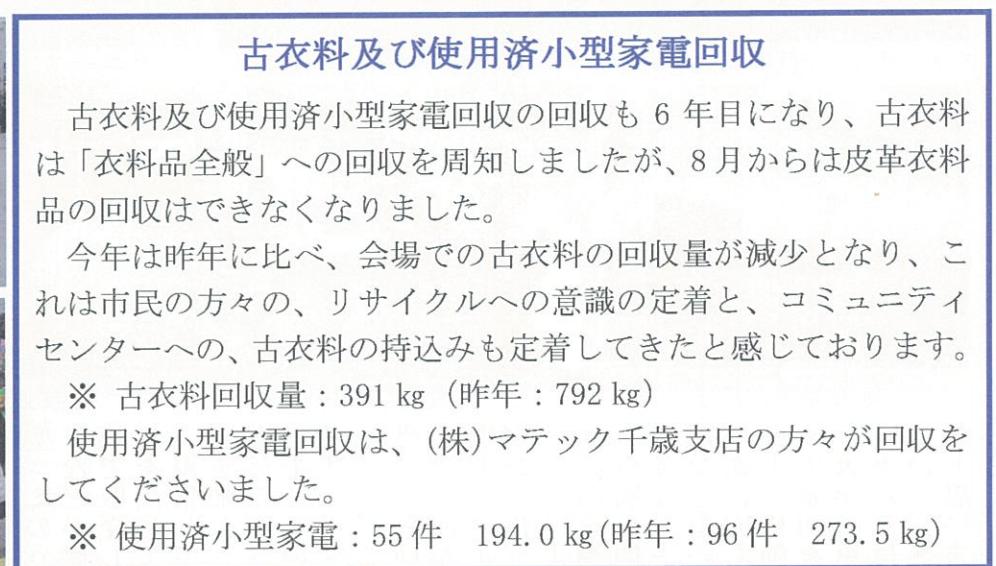
第三十四回リサイクルフェスティバルは、八月八日（土）「軽トラ観光ちとせ市」との同時開催で、グリーンベルト（幸町四丁目）「おまつり広場」「つどいの広場」において、第三十四回リサイクルフェスティバルの目的である「再資源化によるゴミの減量化」を市民にアピールしようと、クリーンアップ推進員会長以下十名、その千歳市民の来場を得て開催した。

自転車無料抽選会

昨年と同様、自転車は今年も多方面からの協力により40台を完成させることができました。

人気イベントである抽選会は、応募者の行列ができ、申し込み人数は昨年の648名を下回る450人でしたが、一台の自転車に最大38名、最小1名、平均倍率は約12倍となる人気で、推進員は抽選券の整理、自転車の運搬で活躍されました。

多くの市民の方々に参加していただき、抽選会は例年通り盛り上がり、無事に終了することができました。



古衣料及び使用済小型家電回収

古衣料及び使用済小型家電回収の回収も6年目になり、古衣料は「衣料品全般」への回収を周知しましたが、8月からは皮革衣料品の回収はできなくなりました。

今年は昨年に比べ、会場での古衣料の回収量が減少となり、これは市民の方々の、リサイクルへの意識の定着と、コミュニティセンターへの、古衣料の持込みも定着してきたと感じております。

※ 古衣料回収量：391 kg (昨年：792 kg)

使用済小型家電回収は、(株)マテック千歳支店の方々が回収をしてくださいました。

※ 使用済小型家電：55 件 194.0 kg (昨年：96 件 273.5 kg)

再活用品展示即売

市民にも、再活用の意識が根づいた感があり、環境センターに廃棄されるものが年々少なってきましたが、再活用品として展示する品物を今年は73点（昨年51点・一昨年55点）と多く販売しました。数は昨年より多くなりましたが、大型の物は少なく市民の方々の、物を大事に大切にする意識の表れだと感じます。

このことは、財団としてとても喜ばしいことですが、大型展示品の目玉がないと少し寂しい感じです・・・。

推進員や(株)カミノの社員の方々には、販売に頑張っていました。皆様のご協力に感謝いたします。



オフィスのプリント環境を考える

RICOH

EPSON

RISO

Canon

Community & Solution
株式会社 カミノ

本社 千歳市新富3丁目3-24
TEL (0123) 23-4255
FAX (0123) 24-1381
科技大売店・恵庭支店・北広島支店

ECOラボ
千歳版環境マネジメントシステム認証登録
認証登録番号:08-011号